

【エクアドル内政・外交：2012年1月】

1. 概要

- 1月 12日 アフマディネジャード・イラン大統領の当国訪問
- 13日 閣僚交替
- 14日 市民革命5周年党大会
- 18日 ナタリー・セリ駐米エクアドル大使の信任状捧呈
- 19日 レオナルド・カリオン・エギグレン駐日エクアドル大使の信任状捧呈
- 21日 ペルー・エクアドル外相会合
- 23日 カザフスタン外交関係樹立

2. 内政

(1) 閣僚交替

13日、コレア大統領は大統領令第1006号を以て、ダビッド・チリボガ(David Chiriboga Allnut)厚生大臣の辞任を承認し、カリナ・バンセ(Carina Isabel Vance Mafla)女史を後任に任命した。

(2) 市民革命5周年党大会

14日、与党国家同盟(AP)は政権発足5周年を祝すべく、“市民革命5周年：祖国を前進させよう(5 Anos Revolucion Ciudadana, Avanzamos Patria: 上記ロゴ参照)”と銘打ち、大規模な党大会を第三の都市クエンカ(アスアイ県)で開催した。

(3) 公務員解雇規定の適用

20日、大統領令第813号(11年7月12日発効)に基づき、二度目となる公務員の解雇が、環境省、文化省、住宅都市開発省、危機管理庁、中央銀行、国家統計調査局などで実施され、約1300名の公務員を解雇した。

(4) デング熱感染者の急増

23日、厚生省の発表によると、今年のデング熱感染者数が280名に達した旨発表、県別ではグアヤス県103名、マナビ県79名、ロス・リオス県69名、エル・オロ県29名、エスメラルダス県12名と海外地域を中心に急増した。また、エスメラルダス県で4名、ロス・リオス県で2名のマラリア患者も報告された。

(5) エクアドル南部地域の豪雨被害

24日、クエンカ市内都市部2区、農村部11区45地区で豪雨による災害が発生した。23棟が家屋被害に遭い、クエンカ市緊急事態委員会は危険度を黄色に引き上げ、特に被害が大きい地域は、キンヘオ区、サンタ・アナ区その他、バグアンチ・パクチャ街道沿い、マチャンガラ川流域であった。

(6) 麻薬を運搬潜水艇の発見

9日、海上警備当局はグアヤス県プナ島の60マイル沖で潜水艇を発見した。同潜水艇は乗組員により警備艇の到着前に沈められた。捕縛された潜水艇乗組員はエクアドル国籍1名、コロンビア国籍3名である。当局によると、潜水艇は航麻薬運搬用に特別に建造されたものとされている。

3. 外交

(1) 対日関係

19 日午後、明仁天皇陛下はレオナルド・カリオン・エギグレン駐日エクアドル大使から信任状を受領した。天皇陛下はカリオン大使の職務の成功を祈るとともに右が両国民の間の親密な関係を更に強化する絆となるよう希望された。一方、カリオン大使は天皇陛下のご健康を祈るコリア大統領からの言葉を伝えた。また、東日本大震災に対する見舞いの言葉を重ねて述べた。

(2) 対米関係

18 日、ナタリー・セリ駐米エクアドル新大使はオバマ米大統領に信任状を捧呈、セリ大使は「相互尊重に基づく関係が両国を互いに強く繁栄あるものとすることを期待する。強固な二国間関係を構築する決意である」旨述べた。

(3) 対イラン関係

12 日、アフマディネジャード・イラン大統領一行はハバナからシモン・ボリバル空軍基地(グアヤキル)に到着した。イラン大統領は政治経済関係の強化を目的にベネズエラ・ニカラグア・キューバを訪問し、エクアドルは 4 ヶ国目で最終地であった。厳戒警備が敷かれた大統領府にイラン大統領が到着し、コリア大統領が丁重に出迎えた。イラン代表団を迎えるため当国政府は昼食会を催した。午後 10 時頃、両首脳は記者会見を行い、コリア大統領はイラン大統領との会合について実りある成果があったとし、両国関係は良好な状態であると強調した。

(4) 対ペルー関係

21 日、ペルー・リマに於いて、ロンカグリオロ・ペルー外相及びパティーニョ・エクアドル外相は、2 月にチクラにて開催される「両国首脳会談」及び「第 5 回両国共同閣議」の準備の一環として、両国共通課題の主要テーマを取り決める実務会議を行った。

(5) カザフスタン外交関係樹立

23 日、モレホン・エクアドル国連常駐代表代理は、国連代表部の同僚のアイチモバ・カザフスタン共和国大使と両国の外交関係樹立の覚書に署名した。右外交関係樹立は、世界国民の理解と統合に向け、地球上の全国家との政治的関係を構築、多様化するという政府の政策の一環であるとしている。